

# 平成29年度釧路市就労移行支援充実強化事業 就労移行支援事業所等職員向け研修



日時：平成29年6月4日（日） 9：30～16：30（受付9：00）

場所：釧路プリンスホテル

定員：100名

参加費  
無料

『福祉楽団で取り組んでいる人材確保・  
育成・利用者支援そして地域との関わり』

講師 飯田 大輔氏

社会福祉法人 福祉楽団 理事長  
株式会社恋する豚研究所 代表取締役

基調講演

9：50～11：50

休憩

11：50～13：00

実践発表

13：00～14：00

発表者

梶野 豊氏 (A型事業所くしろわんこ 理事長)

酒田 浩之氏 (A型事業所島屋ゴマサーカス 管理者)

生き生きと働くために

～障がいのある方すべての活躍をめざして～

アドバイザー 飯田 大輔氏

シンポジスト

井上 拓也氏 (A型事業所はしどい学園分場 支援係長)

若杉 貴子氏 (B型事業所オフィスきらり サービス管理責任者)

高谷 さふみ (くしろ・ねむろ障がい者就業・生活支援センターぶれん センター長)

梶野 豊氏

酒田 浩之氏

シンポジウム

14：15～16：15

お問い合わせ・お申込

くしろ・ねむろ障がい者就業・生活支援センターぶれん (原田・今野)

TEL 0154-65-6500

FAX 0154-65-6470

主催 釧路市・社会福祉法人釧路のぞみ協会自立センター

# 就労移行支援事業所等職員向け研修 参加申込書

FAX 0154-65-6470

※申込締め切り

平成29年5月26日(金)

所属先名	職名	氏名

※申込担当者名（送信者名）

連絡先電話番号（ — — ）

※当日参加者名簿を配布予定です。

掲載の可否についてお知らせ下さい。 可 ・ 不可

※郵送またはFAXでお申込み下さい。

（問い合わせ先）

くしろ・ねむろ障がい者就業・生活支援センター *ぴれん*

TEL：0154-65-6500（担当 原田 / 今野）

E-mail：[jiritsu-center@sky.plala.or.jp](mailto:jiritsu-center@sky.plala.or.jp)

尚、FAX送信後に申込書の到着をお電話にてご確認ください

ますようお願いいたします。FAXでの参加申込みの場合は確

認の電話で申込み終了となります。

# 平成29年度釧路市就労移行支援充実強化事業 就労移行支援事業所等職員向け研修

日時：平成29年6月4日（日）9：30～16：30  
場所：釧路プリンスホテル

目的： 障がい者の就労支援に取り組んでいる福祉・教育・医療・行政関係者及び企業担当者が、就労移行支援と就労定着支援を見据えた就労系事業所の支援・運営について学ぶことを目的とする

## 次 第

1 開会挨拶 釧路市福祉部 奥山栄子福祉部次長

## 2 基調講演

「福祉楽団で取り組んでいる人材確保・育成・利用者支援そして地域との関わり」

講師：飯田 大輔氏

東京農業大学農学部卒業、千葉大学大学院人文社会科学研究科修了

2001年 社会福祉法人福祉楽団 入職

2012年 株式会社恋する豚研究所 設立

【主な役職名】

社会福祉法人 福祉楽団 理事長、株式会社恋する豚研究所 代表取締役

安心システムユナイテッド 副代表理事、東京藝術大学非常勤講師

京都大学こころの未来研究センター連携研究員

## 3 実践発表

梶野 豊氏（企業組合ウェルフェアグループ 理事長）

酒田 浩之氏（NPO法人 和 副理事長）

## 4 シンポジウム

生き生きと働くために～障がいのある方すべての活躍をめざして～

・アドバイザー 飯田 大輔氏

・シンポジスト 井上 拓也氏（A型事業所はしどい学園分場 支援係長）

若杉 貴子氏（B型事業所オフィスきらり サービス管理責任者）

梶野 豊氏

酒田 浩之氏

高谷 さゆみ（くしろ・ねむろ障がい者就業・生活支援センターぶれん センター長）

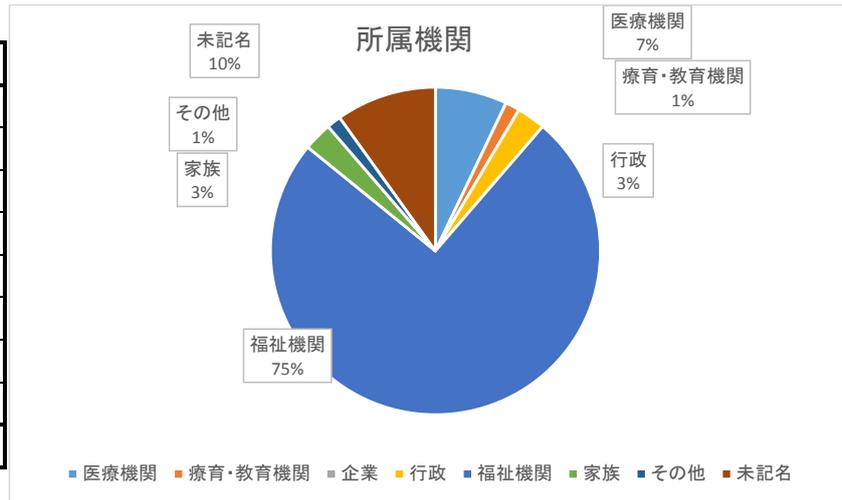
5 閉会挨拶 社会福祉法人釧路のぞみ協会自立センター 所長 横山 豊

◎資料同封のアンケート用紙の提出にご協力ください。

主催 釧路市・社会福祉法人釧路のぞみ協会自立センター

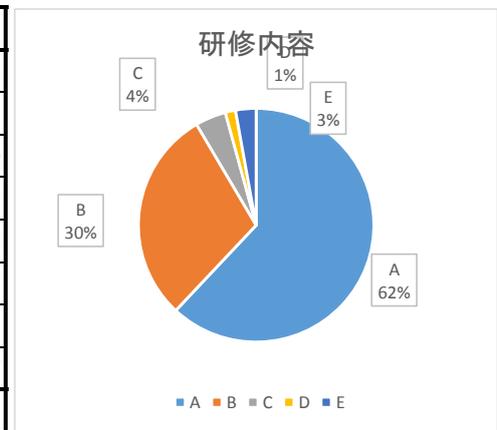
就労移行支援事業所等職員向け研修（H29年6月5日（月） アンケート集計結果  
参加者人数120名 アンケート回収数71名 【回収率81.5%】

所属機関	解答人数
医療機関	5
療育・教育機関	1
企業	
行政	2
福祉機関	53
家族	2
その他	1
未記名	7
合計	71



1. 今回の研修「就労移行支援事業等職員向け研修」満足できましたか

所属機関	A	B	C	D	E	合計
医療機関	2	2	1	0	0	5
療育・教育機関	0	1	0	0	0	1
企業		0	0	0	0	0
行政	1	1	0	0	0	2
福祉機関	33	15	2	1	2	53
家族	0	2	0	0	0	2
医療機関	1	0	0	0	0	1
未記名	7	0	0	0	0	7
合計	44	21	3	1	2	71



A：非常に満足している

【医療機関】

- ・H29年4月より、精神疾患のケアに携わるようになり「就労支援」に力を入れていきたいと考えています。地域で尽力されている団体等の実践を知る機会を得ることができました。ありがとうございます。
- ・基調講演がとてもよかったです。シンポジウムに企業側の方がいたらよりよかったですと思いました。
- ・医療機関から退院支援を行ううえで7地域の実情を知ることができ、大変勉強になった。

【福祉機関】

- ・飯田さんのお話はとても興味深かったです。地域産業と福祉を組み合わせたケアファームの話や現在の幸福度の変化や概念を先にもたせるとそれ以上の膨らみがもてない等、とても勉強になりました。
- ・様々な実践発表が聞け、学びとなった為各部門での努力が大きいと感じた。
- ・各事業所の取り組み方について、把握することができたこと
- ・各事業所の活動を知れて良かった。皆さん苦勞と努力と勉強の継続されている事に勇気をもらいました。
- ・悩んでいるのはどの企業も同じであると感じました。感が方が楽になりました。
- ・新しい発想が得られた・・・。
- ・様々な事業所の話が聞けたこと。共通の悩み、今後方向性など聞けたことが良かったです。
- ・基調講演が興味深かった。成功している内容は概念にとらわれない。地域と福祉の取り組みでありました。

事業が発展することで、障がい者の雇用も安定し生活が豊かになっていき雇用契約した以上責任があると言葉が

印象的でした。

- ・飯田氏の話は、とても良かったです。新たな就労支援を取り組んでみたいと思いました。
- ・飯田氏のお話は、施設支援という物に固定観念を持ち「型」にはめた事をし、想像する、考えるといった事を怠っていたように感じ明日からの支援法を考えるきっかけをいただきました。実践発表、シンポジウムでは、自信の施設と照らし合わせながらお話を聞いておりました。初めて知る活動、考える等、持ち帰り、職員間で話し合う機会に活かさせていただきます。
- ・実践的な内容の話が多く非常に参考になりました。飯田さんの話しに共有できることが多々あり、今迄抱いていたモヤモヤ感が解消されました。ほかの事業所の取り組みや課題がとてもわかりやすく、勉強になりました。
- ・内容は非常に興味があり深かったのですが、「就労移行支援事業所」等向け、というテーマからは若干ズレていた様な気がする
- ・非常に有意義なお話を聞けたり、他施設の実情が聞けた点が良かった。
- ・飯田氏の話の中でいかに地域産業とつながりその中で障がい者の方が働き輪が広がっていくのかが、興味深く知ることができました。
- ・普段は、生活介護、入所支援にたずさわっているので、就労支援分野の現状が聴けて良かったです。
- ・内容が興味深いものでした。
- ・正直に言うと全くのニュートラルな状態で参加しました。飯田氏の講演がとても印象的です。私の頭の中を整理できたこと（就労支援に関して）現在の職場に対してモヤモヤと思っていたことが明確に分かったという2点で大変満足です。恐らく今後就労支援に携わることになると思いますが良い知恵の一つとして役立たせて頂きます。
- ・飯田さんの講演がとても興味深く考えさせられる内容でした。自分の職場に置き換えてあてはまる事などの得た話でした。
- ・これから職場で、就労支援事業所を開設する予定があり、アイデアや考え方なども勉強になりました。
- ・実情さくことができた参考になった。
- ・障がいのある方々の働く場、活き活きと働くための動機など、非常に勉強になる内容でした。
- ・福祉楽団のさん新事業（釧路では見られない）が大変興味深く聞く事が出来ました。自分自身、固定がい念に取られていると思ひ知らされた感があります。
- ・これからの福祉施設の進む方向性を知ることができた。補助金にたよらない。戦略を立てる為・発想の転換、ネットワーク構築の重要性。地域のつながり、活用について考えさせられました。
- ・他の事業所との情報共有がまったくなくA型だけではなく色々勉強になりました。
- ・A型事業所についてのくわしい作業内容など知ることができた。

【家族】

【その他】

- ・飯田さんのご講演内容が非常に刺激的で、特に、事業を存続させるためには、収益が必要、収益を上げるためには、どうすればいいのかその枠組を考えることが、大切だと強く認識した。

【未記明】

- ・内容が良かった、が、基調講演は、一般の企業に聞いていただきたいものと感じられた。広く、一般の企業に対して周知が必要かと思われる
- ・いろいろな事業所のお話を聞けた。
- ・基調講演において、全国的にも、最先端の事業を行っている方の講演を聞いたのは、とても参考になった。また、釧路地域の就労支援の実例を聞くことが出来たことも参考になった。
- ・飯田氏の講演内容がとても興味深く、おもしろい実践や取り組みに関心しました。只、誰もが取り組める内容ではなく、成功事例の紹介といった感じを受けました。刺激にはなりました。

B：やや満足している

【福祉機関】

- ・競争原理、戦略的ビジネスの視点
- ・午前中の講演はわかりやすくとても良かった。飯田さんの講演は何回か聞いていますが、毎回勉強になる話ばかりで、今回も勉強になった。A型では結構減算されているところが多いと感じました。うちはほとんど9：00から16：00の6h出勤し

ています。そのような面からみても

- ・時間が長いため、後半疲れています。飯田先生のお話は、私には新しい視点ではありましたが、なるほどと思えるとても興味のある内容でした。もっと詳しく知りたいことが出てきました。このような斬新な内容の研修はとても良いと思います。
- ・飯田氏の講演から、福祉施設も一般企業なみの営業努力が必要であると実感した。
- ・「最低賃金は生存権の保障」という意味が心に響きました。また、各事業所それぞれの成り立ちや理念内容で初めて知ることもあり勉強になりました。
- ・各事業所がどのように運営しているかどんな事を大切にしているのかよくわかり勉強になりました。
- ・午後から参加しましたが、午前中から参加して基調講演きけば良かったです。（反省）
- ・基調講演については大変良い内容でした。資料があれば良かった。（パワーポイント分）
- ・飯田氏の講演は非常に興味深いものがありました。ただ他の事業所の活動紹介はいららないかと。より深めたディスカッションができずもったいない気がしました。
- ・今後は経営＋福祉へと、進んでいくかもと感じました。

#### 【医療機関】

- ・精神科の患者さん等の就労のために日夜尽力なされているみなさんの姿に強い敬意を感じました。有難うございます。
- ・基調講演がとてもよかったです。シンポジウムに企業側の方がいたらより、よかったですと思いました。

#### 【療育・教育機関】

- ・ちがった視点での就労支援の考えにふれることができました。

#### 【行政】

- ・実践報告とシンポジウムで、内容の重複があり、一体化してもよかったのでは。

#### 【家族】

飯田さんの講義に具体的な事業の拡大等よく理解ができました。

#### 【未記入】

基調講演にて人材育成について話されていたが、今後の自分の成長につなげる為にも「働く意味」にいて考えるきっかけとなりました。

C：どちらでもない

#### 【福祉機関】

- ・企業側公的機関側からの実践発表にまたは福祉に対しての計画等が聞きたい。

D：やや不満である

#### 【福祉機関】

・基調講演の飯田さんの話は人材育成（ビジネス）という意味では為になったが、施設で働いている利用者さんの内面（メンタル）部分の話も聞きたかった。実践発表は配布された資料内容をただただ読んでいるだけであまり内容のある発表ではなかった。

#### 《未選択》

- ・人材育成に関しては支援でも共通するところがあるなと思いました。

就労するにあたって、訓練を経てスキルを獲得し就労したいという意欲が今以上に持てるよう

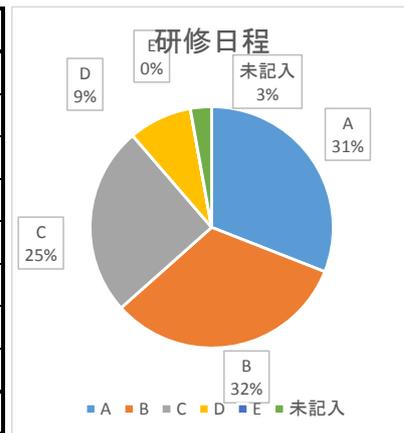
支援していこうと思いました。

・これから就労支援を展開していきたいと考えているので「福祉」の概念にとらわれない・・・という視点や若い人材を育てていくために重要なポイントについてヒントをいただけてよかったです。

ありがとうございました。

2. 今回の研修日程についてあてはまる記号に○印をつけて下さい。

所属機関	A	B	C	D	E	未記入	合計
医療機関	1	2	2	0	0	0	5
療育・教育機関	0	0	1	0	0	0	1
企業	0	0	0	0	0	0	0
行政	0	2	0	0	0	0	2
福祉機関	18	14	14	5	0	2	53
家族	0	2	0	0	0	0	2
その他	1	0	0	0	0	0	1
未記名	2	3	1	1	0	0	7
合計	22	23	18	6	0	2	71



A：非常に満足している

【福祉機関】

- ・午前、午後ともボリュームが丁度良かったです。
- ・タイムスケジュールがしっかりされていた。
- ・飯田先生の講演が興味深かったです。
- ・長くなく、短くなく良かったです。
- ・特に問題のある日程では無かった為。
- ・小さい事業所なので、平日だと行けないので・・・
- ・もう少し飯田氏の取り組みを聞きたかったです。
- ・休日のほうが参加しやすい。
- ・日曜日の実施とうことで、自主的に学びたいと考える方々が集まったように思う。

B：やや満足している

【医療機関】

- ・できるのであれば、半日研修が体調的には助かります。

【福祉機関】

- ・できれば土曜日の方が助かる。
- ・午前、午後と分かれていたので参加出来た為
- ・日曜日なので仕事を気にしないで良かったと思います。
- ・特に問題はありませんでした
- ・日曜日は意外にも集客率が高いことが分かり、研修企画の参考となりました。
- ・ゆったりした日程でした。休けいは、1時間ごとにあればなお良かったです。

【家族】

- ・時間が長すぎ 疲れた

【未記名】

- ・内容・講演ともに、参考になった。
- ・少し朝が早めが厳しかったですね・・・。（地方から参加しているので）

C：どちらでもない

【福祉機関】

- ・日曜だと事前に昼食の準備が必要ですね。
- ・時間が長い 半日で良い
- ・時間が長く感じます。疲れ、眠気を感じました。

D：やや不満である

【福祉機関】

- 平日の方が参加しやすいと思います。
- 研修の時間が長い、場所もプリンスホテルではなく別の公共施設（釧路学習センターとか）のほうが良かったのでは？
- 子供が居る為、平日の方が調整しやすいです。
- 家族との時間がふだんでも少ないから。

### 3. 今回の研修内容について、ご所属の職場でどのような形で生かしていきたいですか？自由にご記入下さい。

【医療機関】

- 利用者さんと施設の見学に行く機会を多くしていきたいです。
- 退院支援を行ううえで、地域の特色、考え方など様々であることを学んだ。また、これからの可能性を見ることができ、地域との連携、協力で課題にとりくむことが大切だと学んだ。

- 各事業所の雰囲気、考え方が少しわかりましたので、今後、患者様を紹介するときに具体的に説明をしていきたいです

【療育・教育機関】

- あらためてA型の今後について進路指導対応を整理していきたいと思います。
- 相手の悩みを聞く時に。

【行政】

- 講師の方の話は、大変勉強になった。各現場において、参考とし、活かしていただければと思う。

【福祉機関】

- まずは利用者支援を主に置いて・・・地域に向けた支援の検討・・・？よくわからなくなりましたが・・・一度整理します。
- A型事業所の取り組みや支援の仕方などを聞いて、「働く」ことについて色々な可能性があることを視野に入れていきたいと思います。

- 現場に、おとし、反映させます。ケアコラボ調べて、実用したいと考えます。

- 今現在事業形態の体質改善で図っているところであり、今回学んだことを特に現場の運営に少しでも生かしたい。

- 新作業種を考えているので、今回の研修で学んだこととして、しっかりと戦略をもって考えていきたい。

- 井上さんが、「それが当たり前という認識ではない」と言っていました。また、高谷さんも「100%の支援はない」と言っていました。自分がやっていることが本当に良い方向に向かっているのか、自問自答したいと思います。

- ニーズに答えて行ける様にしたい

- 利用者さんに対する、わかりやすいツールを使ったりなど・飯田さんがおっしゃっていた内発的動機づけの重要性を強く感じました。「この人と働きたい」という魅力的な人が会社にいるか。自分自身が「この人と働きたい」と思われる魅力的な人であるか。常々意識していきたいと思います。

- 今回、A型事業所という立場もありながら、福祉色に染まらない見方、角度からの話が聞けて良かったと思います。

- 関わる支援を行っている方や、福祉以外の方の現状等を聞いたり、今、必要なこと求められていることを意識して、今後楽しみを持って、やりがいを持って仕事ができるようにしていきたいと思います。

- 今回の研修で学んだ内容、いただいた資料を参考に職員とミーティングなどの時に話し合いたいと思います。

- 就労のため頑張っているが色々な理由で出来ない人のために情報提供していきます。

- 新たに作業種の開拓にはマーケティングリサーチを取り入れていけたらと考える

- 今一度、利用者が、よりよい人生となるような就労の場を提供、支援するため、柔軟になりたいと感じました。

- 生かすというより、今後の課題に対する取り組みの参考にしたいと思います。

- 色々な視点から見ていくことが大切だと思った。

- 日々支援する中で様々なハプニングが起ることが多いが現状余裕を持った丁寧な支援が出来ていないことある本日シンポジウムB型オフィスきらりて実践されている日誌の交換や書くことが困難な方には一日をふり返り面談を行う時間を設けられたらよいと思いました。

- 様々な各事業所での取り組みが聞かれたので、多様性ある就労内容を自分の事業所にも取り入れていきたいと思いました。

- 福祉の事業所毎の”付加価値”が必要となってくるように思いました。自分の事業所の「負荷価値」をみだして支援につなげていきたいと思いました。

- ・概念をつい作りがちなので先に作らないで枠を超えた実務をやっていければ良いと思いました。
- ・就労支援していく際に、社会資源も視野にいれて考えていこうと思った。
- ・これから働く事になる利用者さんへのサポートや就労事業所の開設に活かしたい。
- ・利用者本位の就労のあり方を考えていきたいと思いました。地域との関わりを大切にしていきたい
- ・管理者ではないですが、「紙からの解放」とICTが進むように、また承認欲求が満たされるようま職場作りに協力していきたいです。
- ・職員も経営者意識を持って仕事をしていかなければならないと感じました
- ・B型で労働性のあるものをしているなら最賃に違反しているという認識を持っていないといけない
- ・色々の発想があって良いと思います。自分の考えを発信する様にしていきたいです。
- ・話の内容を報告、自身で活かせるものは無いかな？等検討させていただきます。
- ・人材育成はます！！若者への対応は「なるほど～」と思ったので。
- ・事業所の存測、運営は、AもBも移行も関係なく重要であり、いち職員としても考えていかなければと思いました。それと同時に自分自身も、やりがいを感じられるように働きたいと思いましたので、内的に豊かになるよう何かを考えたいと思います。
- ・地域との関わりを深くしていけるようにしていきたいと思います。

#### 【家族】

- ・家族会の一員として施設に働きかけたいできれば法人の理事としてとりあげてもらいたい

### 4. 障がい者の就労に関するご意見・ご要望等がありましたら、自由に記入してください。

#### 【医療機関】

- ・どこまで病状が落ち着いていたら受け入れてもらえるか、不安があります。不安な状態がみられた時に、医療につないでいただけると、安心して就労におくりだせます。就労前、特に医療と連携して頂けるとありがたいです。

#### 【療育・教育機関】

- ・高校にて支援を行った生徒がどうなったか情報交換できる機会をつくりたいと思っています。高校の先生方にフィードバックすることが必要と感じています。

#### 【行政】

- ・賃金保障の観点が勉強になります。

#### 【福祉機関】

- ・色々な学びが必要になってくるのでしょうか？福祉的な概念のままでは、今後難しくなってくるのかも・・・と感じました。
- ・別な職場から4年前から現在の職場に就労しましたが、当初から福祉業界の発想に違和感を持っていました。事業に対する考え方が偽善的な面が強いのではと思っています。
- ・A型事業者にとって生産活動の収益のみで給与を支払うことが大変であることが理解できた。
- ・「介入」と、何の気なしに使っていましたが、その言葉の持つ意味や、自分の支援に対する向き合い方を考えさせられました。
- ・工賃を上げろと国や行政は言っていますが、実際現場では難しいです。正直。職員のスキルアップも目指して研修等行っていますがなかなか実践に結びつかない状況です。行政の方たちは、現場の状況をよくみて理解して制度をつくってほしいです。
- ・正直私達の施設では一般就労を希望している人は今の所ありません。いつか一般就労に向けて支援（ソフト・ハード面で）出来る様にと 생각합니다。
- ・企業の方々が参加しやすい研修会があればいいと思いました理解を深めてもらうためにも、企業を支援（福祉）が関われる機会がもっと必要と感じました。その際は忙しい方でも参加しやすい日程、時間帯など、検討が必要と思います。
- ・就労のためと頑張ってきた方へ、A型B型へのお仕事を考えて行くタイミングが難しいです。
- ・性格なのか、障害なのか、見極めがむずかしいことがある。
- ・”就労”ののび悩みと”定着”に対するのび悩みについても課題と思います。
- ・「和」さんの地域をこえた就労（web、広告塔）によいと思いました。日本全国きぼと考えると沢山の可能性があるかと。
- ・この人には何が出来るか？という考えで8割動いていました。まずは仕事・営利・利益を生むという考え方にシフトチェンジしなければという基本的な所を今のタイミングで分かったことは一番の収穫です。
- ・多様の障がいの者の夢、希望も現実離れの内容が出て来て利用者の意図を組むのが難しいと考える
- ・家族としては、いつも思うことはこのように研修会を企画し学習していただいていることに感謝です。私も常々家族の役割ということを考えながら息子を応援して来ましたがこれからも関係機関の方々と連携し、息子を支えて行きたいと思います家族も日々勉強だと思っています。

- ・地方の小さな町で、需要と供給のサイクル、人材確保など様々な課題がある中、何かに取り組んでいくか？新たな視点をもって考えていきたいと思いました。
- ・広く企業に対して障害者の雇用する為の理解を意義、あるいは使命みたいなものを伝えられる機会を持ちたい。質問する企業を数多く増やせば・・・
- ・働きたいニーズを持ちつつ、企業のニーズに合わず就職できない、離職するといった事を見てきました。企業の選択肢も多くない中、大変とは思いますが上手に、マッチングできる。企業の数が増え、選択肢が広がれば良いのですが。
- ・障がい者の就労はむずかしい事や考える事、たくさんありますが、常に色々なアンテナをたてて、横のつながりを強めていく必要があると思います。
- ・働くことに、意欲がもてる就労を提供できるように相談していきたいと思います。

## 5. その他今後の研修会の開催に関してご意見・ご要望等ありましたら、自由に記入して下さい。

### 【療育・教育機関】

- ・実際に働いている現場を見る機会がつかれると助かります。

### 【福祉機関】

- ・ニュートラルな状態で拝聴できて、とても有意義なものとなりました。まずは、早速「福祉を変える経営」を読んでみます。
- ・飯田さんの基調講演、ごもっともだと思い聴かせて頂いていました。提案し、文化を作っていく取り組みこれからの福祉には必要なのだと気づき、今の自分に何ができるか考えていきたいです。
- ・障がい者のがいはまだ害を使用している認識は・・・関係者の意識の本音だろうか関係者は「がいが」に統一してほしいものである本音と建前のつかい分け・・・？
- ・家族の方の出席者が少ないのは残念です就労支援を受けている家族が交流する機会があっても良いですね
- ・就職支援の活動内容、B型事業所の活動について。
- ・講師の先生や他の事業所、会社の方々とは名刺交換できる時間があるとうれしいと思います。
- ・経営を意識した福祉事業所の学び・・・でしょうか？⇒10年先を想定すると必要になってくるのでは・・・？先手が必要
- ・当事者の方々を支援する、一般職員を安定、育てるのか、且つ、どう集めていくのか、質の高い、サービスを維持するため、より質の高い職員をどうするのか、を、とを考えます。
- ・今回の様な具体的に事業内容を通じて学ぶセミナーを今後期待します。
- ・他事業所さんの取り組みをもっと知れるような研修企画おねがいします今日の研修によって他事業所さんに敬意を払いたいと思いました
- ・社会福祉法人の公益性、社会的役割に注目し、地域社会づくりに尽力され、地域の活性化に一役かっている事業所のお話を聞いてみたいです。（地域、コミュニティの力がupしたら、いわゆる弱者と呼ばれる方々が暮らしやすい環境につながった、とう実践のお話）
- ・B型事業で管内トップの工賃であるのんきの大木さんの話を聞いてみたいです。おもしろい事やってると聞いたので・・・。
- ・参加しやすく時間ももう少し短くして頂けたらと思います。疲れ、集中力が落ちてくるため。
- ・市内 事業所の方たちと情報共有していきたいです。
- ・就職する側と受け入れる企業側の意見交流などがあると良いと思います。

# 職員研修 報告書・レポート

平成 29 年 6 月 4 日 (日)

氏名： 竹谷 知比呂

① 研修名：平成 29 年度釧路市就労移行支援充実強化事業 就労移行支援事業所等職員向け研修

② 研修内容：1. 基調講演「福祉楽団で取り組んでいる人材確保・育成・利用者支援そして地域との関わり」講師：飯田 大輔氏

恋する豚研究所の紹介、千葉県多古新町ハウスの現状と経過。地域ケアよしかわの成り立ちと地域とのかかわりについて。栗源第一薪炭供給所の運営の仕方について。

ケアコラボの開発、アクションの基本的な考え方について。

実践発表 梶野 豊氏（企業組合ウェルフェアグループ 理事長）

酒田 浩之氏（NPO 法人 和 副理事長）

## 2. シンポジウム

「生き生きと働くために～障害のある方すべての活躍をめざして～」

アドバイザー 飯田 大輔氏

シンポジスト 井上 拓也氏（A 型事業所はしどい学園分場 支援係長）

若杉 貴子氏（B 型事業所オフィスきらり サービス管理責任者）

梶野 豊氏

酒田 浩之氏

高谷 さふみ氏（くしろ・ねむろ障がい者就業・生活支援センターぶれん センター長）

## ③ 成果/感想：

恋する豚研究所の取り組み方を聞いて、福祉を前面に出さない運営の仕方、また人のあまりいない山の中で収益を得ている事を知り、商売として、商品の安心や信頼性と味に対する自信を前面に押し出して行う事の大切さを知る事が出来た。

売るからには手を抜かない商品を作りあげる事や、店の雰囲気もお客様が来てもらえる外観や過ごしやすさも考えて作られている事がわかり、事業を行うために大切な収益を考えた運営が大切であることを改めて感じた。ほかの事業で賄って、赤字を恐れない運営のあり方は、すべてを黒字に使用と努力するよりも大切なポリシーを感じた。恋する豚や栗源第一薪炭供給所のように、地元産業に目を向け、地域に根差した事を行う事や、地域の人が必要としている事を行い、地域を巻き込んでいける事を行う事がより魅力を増す事業へと発展しているのだと感じられた。商品売る為には営業に力を入れる事やはり大切であり、作ったものが売れなければ何も意味をなさないと思えた。地域に必要とされるサービスや事業所となる為には、地域の方との関わりが持てるオープンな取り組みや活動が不可欠になっていくのだと思った。制度ありきの仕事ではなく、無い物を自分たちで作

っていく生産活動も福祉法人の担うものであるのではと思った。

人材育成については、若者の感じ方や今の生活スタイルに合わせたものでなければならぬ事はわかるが、やはり、時間をかけて新任研修を行う事や、仕事が楽しく興味深いもので、自分自身の成長に繋がっていると実感できるかが重要である事は共感した。職場と一緒に働きたいと思わせる人材がいる事、育てる事は職員の職場定着において大事な事であるが、難しい課題であると思った。

また、障害者を雇用する事、A型事業所の苦勞がシンポジウムや意実践発表から知る事ができた。障害者の生活を支える事や、生き活きと暮らすために考えていかなければならない事は、地域、利用者との関わりや連携が大切だと思った。

#### ④ 今後の支援に活かすため、具体的に実行する行動：

自立センターとして、ペじぶるの売上に関する事は、センター全体で案を出したり、販売方法など考えていけるのではないかと思うので、一緒に考えていきたいと思う。

地域との関わりを大切にするとすることは、自分の仕事においては、企業との関わりやニーズにこたえていくことや信頼を得られる事であるので、利用者の支援だけではなく企業支援や、他事業所との連携・情報共有を 行いながら構築するように意識した言動をとっていききたいと思う。利用者にマッチングした仕事を探すことや、企業との関わりや仕事の切り出しなどを意識していくことをもっと積極的に行っていきたいと思う。

.....

# 職員研修 報告書・レポート

平成 29 年 6 月 4 日 (日)

氏名：和泉 宣也

① 研修名： 釧路市就労移行支援充実強化事業 就労移行支援事業所等職員向け研修

② 研修内容：

(1) 社会福祉法人 福祉楽団「飯田大輔氏」基調講演

「福祉楽団で取り組んでいる人材確保・育成・利用者支援そして地域との関わり」

- ・ 2003年にヤマト福祉財団小倉昌男氏の著書「福祉を変える経営～障害者の月給一万円からの脱出～」を読み、自身が営んでいる豚に関するリブランニングを考え始めた。
- ・ 自ら始めたA型事業所で、利用者に「10万円の給料を約束する」と公言し、公言したことで、10万円の収入を確保するための方法を考え出す必要があった。福祉と言えども、人から入るのではなく、収益確保から入ることで、長く続く事業にしていく。
- ・ 加熱された食物が腸で吸収されやすいのは豚にとっても同じ、だから発酵成分を加えた飼料を自分たちで作る、腸内で吸収しやすいエサを与える。そうやって、美味しい豚肉を作っていく。つまり、誰も取り組んでいないことを行ない、付加価値をつけ、収益を上げる枠組みを作っていく。
- ・ A型事業を始める際に、大学の研究室と連携し、産学連携の形を取ることで、事業開始に伴う初期リスクを減らした。
- ・ 最低賃金の設定は、能力には関係なく、憲法の生存権を形に表わしたものだ と解釈している。
- ・ 障害者が取り組んでいる事業だとどこにも表記していない。なぜなら、人は概念から入ると、思考がふくらまない。
- ・ 製造よりも販売が重要。肉の分野で生き残りたいなら、その業界の給与水準で人を雇うなど、その業界の基準で物事を考えていくことが必要。
- ・ 作業分解書を作り、各作業に番号をつけ、障害ある人に取り組んでもらう作業を四角で囲み、「今日は、○番と△番の作業をやって下さい」のような指示を出す。
- ・ 薪を作る事業を行なうなら、薪を使う事業所を探す、薪を使う地域にしていく、薪を使う文化を作っていく。
- ・ 人が集まり生活が変わる、地域が変わる。そのことで、その地域の不動産価値が上がる。
- ・ 事業は、戦略があるかどうかが大切。

## (2) 実践発表（梅野豊氏、酒田浩之氏）

### ●梅野豊氏

- ・自立支援法が、規制緩和の役割を果たし、A型事業を起こすきっかけになった。
- ・A型事業を起こす際には、利用者の能力や思いなど、本人主体で考えた。
- ・経営面では、A型事業に転換しなければ、運営補助金が減額になり、職員数が減り、実質経営できない状況に陥るのを防ぐ意味もあった。
- ・A型を起こす際、フランチャイズで経営できる方法を模索した。しかし、様々な理由で許可が下りなかった。狙いは、大きく儲からなくてもいいから、つぶれない店を作りたい。
- ・毎年一回、A型利用者に対して、就労移行支援事業所の情報提供を行ない、一般就労の可能性を閉ざさない支援をしている。

### ●酒田浩之氏

- ・A型事業所を起こすきっかけは、酒田氏が病院で行っていたカウンセリング時に、働きたいと願う精神障害の人の行き先を確保するため。
- ・シッポファーレの印刷業務拡大のための営業時には、福祉施設で営業をかけると、福祉事業所の説明から始めなければいけない。だから、お客様と接する時は、有限会社で接している。

## (3) パネルディスカッション（井上氏、若杉氏、梅野氏、酒田氏、高谷センター長）

- ・それぞれの事業所が抱える悩みを発表
- ・将来に向け、自分たちの事業所の課題をクリアする見通しを発表した
- ・パネリスト同士の質問によって、それぞれの事業所の考え方を、改めて理解する機会ができた

### ③ 成果/感想：

まず収益確保から考えるのは当然かもしれないが、誰もやっていないことに取り組むことで、付加価値を上げ収益確保に繋げるには、根拠となる考え方やエビデンスに基づいた経営側の判断が大切だと感じた。事業が認知され、地域が変わり、生活が変わることが、実際に起こっているのを目の当たりにして驚いた。

実践発表およびパネルディスカッションの内容は、自分たちの関わる利用者の利益のために、悩みながらも誠実に取り組んでいる発表ばかりで、心が動いた。地元でこのような取り組みを行なっている事業所があるのは、大変心強いと感じた。

### ④ 今後の支援に活かすため、具体的に実行する行動：

- ・エビデンスにもとづいた言動を心がける
- ・企業で職務の切り出しや雇用管理の枠組みを考える際、企業にとっても、自分の会社が障害ある人を雇用することで、障害ある人が入社する前以上に発展するような枠組みを提案もしくは協議していく。

# 職員研修 報告書・レポート

平成 29 年 6 月 4 日 (日)

氏名： 鈴木 洋介

---

① 研修名： 平成 29 年度釧路市就労移行充実強化事業

② 研修内容：

1・基調講演

「福祉楽団で取り組んでいる人材確保・育成・利用者支援  
そして地域との関わり」

講師：飯田 大輔 氏

2・実践発表

梶野 豊 氏 (ウエルフェアグループ 理事長)

酒田 浩之氏 (NPO 法人 和 副理事長)

3・シンポジウム

井上 拓也氏

梶野 豊 氏

高谷 さほみ氏

若杉 貴子氏

酒田 浩之 氏

③ 成果/感想：

「社会福祉法人 福祉楽団 理事長」「株式会社恋する豚研究所 代表取締役」  
飯田 大輔 氏を講師に迎え、道内にはあまりない障がい福祉と事業経営の新しい観点  
からお話し頂いた。A 型を経営する上で、給付費に頼るのではなく、A 型本来の目的を果  
たし、自分たちがビジネスで稼いで、賃金を支出する。当たり前なことだが、管内では類  
をみない。参加された A 型事業者はとても参考になったのではないか。講演の中で一番印  
象に残ったのは、企業とやり取りするなかで、社会福祉法人では全く相手にされず、株式  
会社を立ち上げたことで、同じ土俵に立つことができた。というものだった。地域性も大  
きく関係してくると思うが、現時点での管内の A 型事業では法に定められている賃金を  
払うのは難しいだろう。これから各事業所模索して経営を検討していくことと思われるが、  
利用者が地域の一員として生活するためにはなくてはならない A 型なので、お互いに切磋  
琢磨し、情報提供等しながら、地域資源の一角として進んでほしいと切に感じた。

④ 今後の支援に活かすため、具体的に実行する行動：

年々、社会福祉法人の置かれている状況が厳しくなる中で、今まで見たく福祉だけの事業展開で法人として生き残れるのか？自分たちのスタンス「利用者主体の支援」は変わらないが、釧路の障害者支援の中心を担ってきた法人として、これから地域にどのように関わっていくのかを利用者だけではなく、地域のニーズを拾いながら考えて行きたい。又、A型就労を進める状況もあるので、釧路のA型で安定した賃金収入を得ることができるのか事前にリサーチを行い、相談者に進めていきたい。